

ぶんぼう

① 動詞の受身形1

れんしゅう1

Vグループ1 辞書形の最後の音を /u/ 行を/a/行にし、「れる」をつける。

| | | |
|-----|---|-------|
| 聞く | → | 聞かれる |
| おす | → | おされる |
| かつ | → | かたれる |
| 死ぬ | → | 死なれる |
| よぶ | → | よばれる |
| ぬすむ | → | ぬすまれる |
| なぐる | → | なぐられる |

例外 「～う」の動詞は、「～わ」にし、「れる」をつける
 わらう → わらわれる

Vグループ2 「る」をとって「られる」をつける。

| | | |
|-----|---|-------|
| 見る | → | 見られる |
| 食べる | → | 食べられる |

Vグループ3

| | | |
|--------|---|---------|
| はんたいする | → | はんたいされる |
| 来る | → | 来られる |

受身動詞は、他から動作を受けることを表す。受身動詞を用いる場合、動作の対象を主語か主題にし、動作主を「に」で示す。

先生に注意ちゅういされました。
 かにさされたら、すぐ薬をつけてください。
 ジョンさんはゆうべ、どろぼうに家に入られたそうです。
 わたしは帰りに雨にふられました。
 妹はさるにかまれたことがあるので、さるがきらいです。

受身動詞は目的語を伴う場合もある。動作の対象は主語の所有物の場合が多い。

今朝バスの中でとなりの人に足をふまれました。
 近所の子どもにまどのガラスをわれました。
 いつさいふをぬすまれたか、わかりません。
 習った漢字は、漢字で書かないと、てんを引ひかれます。

日本語の受身文において、主語が迷惑を受けるといったマイナ斯的な意味を必ずしも表すとは限らない。迷惑を受けたり与えたりする意味合いがなく、中立的なニュアンスの文もあるため、文脈で判断することが重要である。

「これを先生にわたしてください」と友だちにたのまれました。
 名前をよばれたら、「はい」と言ってたってください。
 試験でいいえんをとったので、先生にほめられました。
 水におちた子どもは、けいさつかんにたすけられたそうです。
 きこの友だちにさそわれて、プールへ泳ぎに行きました。

② ～のに

れんしゅう2

文と文を接続する表現である。「のに」の前文の述語は普通形となる。現在形の肯定の名詞と、な形容詞は「Nな」、「adjな」となる。「のに」は逆接で、前述と後述の文は、因果関係を表す。つまり、予測や期待された事柄や結果とは異なった結果になったことを表す。また、話し手の不満やがっかりした

気持ち、感心などの感情が込められることが多い。

がんばって勉強したのに、せいせきが上がりませんでした。

今日は寒くないのに、あの人はセーターを着ています。

トイくんはまだ子どもなのに、いつも両親の仕事をつたえます。

田中さんはいそがしいのに、今晚のパーティーに来てくれます。

③ Vばよかった / Vなければよかった

れんしゅう 3

過去にしなかった事柄やしてしまった事柄への後悔の気持ちが込められた表現である。「しなかったこと
をしておけばよかった」と後悔する場合は、動詞の肯定形を活用し「ば+よかった」を加える。ば形は動詞
のグループに関係なく、最後の/u/行を/e/にし、「ば」をつける。

Vグループ1

| | | |
|-----|---|------|
| 買う | → | 買えば |
| みがく | → | みがけば |
| 泳ぐ | → | 泳げば |
| 出す | → | 出せば |
| かつ | → | かてば |
| 死ぬ | → | 死ねば |
| よぶ | → | よべば |
| 飲む | → | 飲めば |
| とる | → | とれば |

Vグループ2

| | | |
|-----|---|------|
| 着る | → | 着れば |
| 止める | → | 止めれば |
| 入れる | → | 入れれば |

Vグループ3

| | | |
|------|---|-------|
| 勉強する | → | 勉強すれば |
| 来る | → | 来れば |

〈バスターミナルに到着したが、切符がもう売り切れていた〉
せきがありません。電話でよやくしておけばよかったです。

〈旅先の景色がすごくきれいだった〉
カメラを持って来ればよかったです。

「したことをしなければよかった」と後悔する場合は、ない形の動詞から、「い」をとり、「ければ」をつける。

| | | | | |
|-----|---|------|---|--------|
| 行く | → | 行かない | → | 行かなければ |
| 食べる | → | 食べない | → | 食べなければ |
| する | → | しない | → | しなれば |
| 来る | → | 来ない | → | 来なければ |

〈会議でパーティーのショーについて提案したら、ショーの担当者になった〉
言わなければよかったです。

〈おかしを買って、家に帰ると、同じものが置いてあった〉
買わなければよかったです。

④ 原因や理由を表す て／で

原因を示すには、「V/Adj て形」「Nで」の形を用いる。前述の文は原因、後述文はその結果を表す。後述の結果を表す文は、依頼や助言、勧誘、意志、禁止、許可などの文である点が、「から」や「ので」と異なる。

- 台風で、ふねが海に出られません。
- ゆうべ火事で家が三げんやけました。
- このきかいは、使い方がふくざつで、使えません。
- 友だちに來られて、よしゅうができませんでした。
- お金がたりなくて、自転車じてんしゃが買えません。
- このホテルはサービスがよくて、お客さんが多いです。

この「て」は第20課「Vて、(どうも)すみません。」のように謝罪の理由を述べる他にも、喜びや残念な気持ち等の感情が生じる原因や理由を述べる際にも用いる。

- おそくなって、すみません。
- 出発の時間に間に合って、よかったですね。
- パーティーで森さんと会えなくて、ざんねんでした。
- 先生にほめられて、うれしかったです。
- いなくなった犬いぬが見つからなくて、かなしいです。

⑤ Adj すぎる / V ます すぎる

形容詞や動詞に「すぎる」をつけると、「過剰、あまりにも」という意味が含まれる。タイ語は[kæən pay]である。活用形は次の通りである。

い形容詞 「い」をとり、「すぎる」をつける。

早い → 早すぎる

な形容詞 「すぎる」をつける。

しずか → しずかすぎる

動詞 「ます」をとり、「すぎる」をつける。

あそびます → あそびすぎる

- この字は小さすぎて、読みにくいです。
- このゲームはかんたんすぎて、つまらないです。
- 食べすぎて、苦くるしいです。
- ゆうべいろいろ考えすぎて、ねむれませんでした。

⑥ V てしまう

二つの意味がある。

6.1 V て形に、完了や全て終わるということを表す

- あしたまでにレポートを書いてしましましょう。
- この小説はとてもおもしろかったので、一日で読んでしまいました。

6.2 話し手や主語が望ましくない事柄を示す動詞につけ、その動作の実現が悲しかったり残念だと感じるということを表す。この場合、「V てしまう」は、「V てしまわない」のように否定形で用いることはない。

- きのうころんで、けがをしてしまいました。
- こうつうじゅうたいで、パタヤまで3時間もかかってしまいました。
- あきこさんに借りた着物をよごしてしまいました。

急がないと、電車が出てしまいますよ。

⑦ Vましょうか

れんしゅう5

手伝いや助けを申し出る表現である。

〈暑いと言っている友人に扇風機をつける〉

A: 暑いですね。

B: ぜんふうきをつけましょうか。

A: ありがとうございます。おねがいします。(申し出を受ける場合)

〈重そうな荷物を持っている友人に申し出る〉

A: 重^{おも}そうですね。てつだいましょうか。

B: だいじょうぶです。ありがとうございます。(申し出を断る場合)

ぶんぼう

① 動詞の受身形2

れんしゅう 1-3, 6

この課では、主語や主題が無生物の受身文を取り上げる。その主語や主題は、多くの人知っている事柄であることが多い。話し手は、その主語や主題について、いつ建てられたか、いつ行われるか等の説明をする。

- ワット・プラケオはぶつれき 2327 年に建てられました。
- ぞう祭りは毎年十一月にスリンでおこな行われます。
- 英語は世界中で話されています。
- この小説はいろいろなことばにほんやくされています。

動作主は「によって」で示される。

- 『สี่แผ่นดิน (Four Reigns)』はククリットによって書かれました。
- 電話はベルによってはつめい発明されました。

社会的に人々が信じている事や考えについて述べるためにも使う。

- タイでは、むすこがおぼうさんになると、両親はてんこく天国へ行けると信じられています。
- 日本では、一月一日の夜に、いいゆめを見ると、その年としはしあわせになると言われています。

② V1 (Vdic / Vた) 時、V2

れんしゅう 4-5

「～時」を動詞で修飾し、主文の動作が行われる時を示す。タイ語は[toon thii]や[mua]である。

- V dic + 時 V1 の前に V2 が実現する
- V た + 時 V1 の後で V2 が実現する

「時」には、助詞「に」をつけてもつけなくても良い。

- 日本へ行く時、日本の友だちに手紙を出しました。
- 日本へ行った時、日本の友だちにあんないしてもらいました。
- 部屋へやに入る時に、くつをぬがなければなりません。
- 学校に着いた時には、門はまだ閉まっていた。
- きのう家に帰る時、乗っていたバスがこしょうしました。
- 家を出る時も家に帰った時も、ご両親にあいさつしてください。
- タイ人は人に会った時わかも人と別れる時もワイをします。

③ だろう/でしょう

れんしゅう 7

文末に「だろう/でしょう」をつけると、推量表現となる。「たぶん」を共に使用すれば、やや強調した表現になる。「だろう」は「でしょう」の普通形である。

「だろう/でしょう」の前の述語は普通形となる。例外は、現在肯定形の名詞と、な形容詞で、「だ」を省く。

- あの二人は顔がにえていますから、たぶん兄弟でしょう。
- このへんにまき駅ができれば、にぎやかになるでしょうね。
- むかし、人びとのせいかつはたいへんだったでしょうね。
- ディロックさんはたぶんあのことをおぼえていないでしょう。
- あしたはは晴れるだろうと思います。

④ (材料) で

助詞「で」は、乗り物や動作の手段・道具のほかに、材料も示す。

バナナのはっぱでクラトンを作って今晚、川にながしましょう。

さいきんパンで作ったクラトンもあるそうです。

子どもの時、バナナの木でうまを作って友だちとあそびました。

⑤ NしかVない

限定するという意味では「だけ」と似ているが、「少ない、限られている」という話者の気持ちが含まれる。タイ語は[khêe...thâwnán]である。主語や目的語がつく場合、助詞「が」「を」を省き、「しか」をつける。その他の格助詞のついた名詞がつく場合、「名詞+格助詞」の後ろに「しか」をつける。

買い物をしすぎて、もうバス代^{だい}しかのこっていません。

もうすぐパーティーが始まるのに、田中さんと山田さんしか来ていません。

まだひらがなしか習っていないので、漢字は書けません。

ヤオワラックさんは用事がある時しか電話をくれません。

うちの車は小さくて、後ろには二人しか乗れません。

そのお寺は、ふねでしか行けないので、不便です。

トイレは3がい^{がい}にしかないんですか。

この本は学校の売店^{ばいてん}でしか買えません。

このへんは大きい木がなくて、草^{くさ}しかはえていません。

ぶんぼう

使役動詞

れんしゅう 2-6

活用形は次の通りである。

Vグループ1 辞書形の最後の音を /u/ 行から /a/ 行にし、「せる」をつける。

| | | |
|------|---|--------|
| 急ぐ | → | 急がせる |
| 話す | → | 話させる |
| 立つ | → | 立たせる |
| よろこぶ | → | よろこばせる |
| 読む | → | 読ませる |
| 走る | → | 走らせる |

★例外 「～う」は「～わ」にし、「せる」をつける。

| | | |
|----|---|------|
| 洗う | → | 洗わせる |
|----|---|------|

Vグループ2 「る」をとり、「させる」をつける。

| | | |
|-----|---|-------|
| 見る | → | 見させる |
| 考える | → | 考えさせる |
| やめる | → | やめさせる |

Vグループ3

| | | |
|-------|---|--------|
| コピーする | → | コピーさせる |
| 来る | → | 来させる |

使役動詞には、以下のような用法と意味がある。

- 感情を表す動詞に使い、主語が、誰かに対し、その感情を引き起こすことを表す。主語の行為により、その感情になる者は目的語として扱い、助詞「を」で示す。この場合の「させる」は、タイ語では[tham hây]である。

また妹をなかせてしまいました。

小さい時、よく友だちとけんかして先生を困らせました。

夜おそく帰ってご両親を心配させないでください。

大学にごうかくして両親をよろこばせたいです。

北村さんはよくおもしろいことを言って友だちをわらわせます。

人を待たせた時、「お待たせしました。」と言ってあやまります。

- 主語が、誰かに動作をするように命令したり強制したりする意味を表す。その動作が自動詞の場合、命令を受けた人（動作主）は助詞「を」で示す。その動作が他動詞の場合、命令を受けた人（動作主）は、助詞「に」で示す。

さいきん、子どもをじゆくへ行かせる人がふえています。

先生はしゆくだいを出さなかった学生をろうかに立たせました。

先生は学生にしょうらいについて作文を書かせました。

母は毎日料理を作った後で、姉に台所をかたづけさせます。

工場では、きけんな仕事はロボットにさせます。

たいいくの先生はサッカーのせんしゆくを毎日一時間走らせます。

先生は学生にあしたじしよを持って来させます。

文脈により、許可や放任という意味を表すこともある。

先生は学生にじゆうにせきをえらばせますか。

両親は妹を一人で出かけさせません。

少し考えさせてください。

ぶんぼう

① 敬語

敬語とは相手に敬意を表す表現である。先生や上司、客など、会話の相手に対し、礼儀をわきまえる必要のある場面や改まった場面において、よく用いられる。このような敬語表現は、両者の関係において、親密な関係が築かれていなかったり、地位の違いなどが反映される。親密な関係が築かれるにつれ、敬語表現がだんだん使われなくなることもある。

敬語には、動詞、名詞、形容詞、副詞など、さまざまな品詞で用いられるが、次の三つの種類に分類することができる。

1.1 尊敬語：話し手が特に気を使って敬意を表したい相手や第3者について言及する時に用いる。例えば、先生の家族について言う時、「家族」の代わりに「ご家族」を使う。

1.2 謙譲語：話し手や、話し手の「うち」の人間について述べる時に用いる。例えば、自己紹介をする時、「ナッターと申します。」といったように、「言います」の代わりに「申します」を使う。

1.3 丁寧語：日常語より丁寧な言葉遣いである。例えば、「ここ、これ、この人」の代わりに「こちら」を、「どう」の代わりに「いかが」を、そして、「食事」の代わりに「お食事」を使う。

② 尊敬語の動詞

2.1 動詞の尊敬語は二種類ある。

れんしゅう 1-2

a. 尊敬語独自の動詞を用いるもの

| | | |
|----------|---|-----------|
| 見る | = | ごらんになる |
| 食べる／飲む | = | めしあがる |
| 行く／来る／いる | = | *いらっしゃる |
| 言う | = | *おっしゃる |
| する | = | *なさる |
| くれる | = | *くださる |
| 知っている | = | ごぞんじ (名詞) |

*「～しゃる」と「～さる」で終わる四つの動詞の「ます」形は「～しゃいます」と「～なさいます」になる。

いらっしゃる → いらっしゃいます

〈タイのカレーを食べたことがあるかどうか、お客さんに聞く〉

タイのカレーをめしあがったことがありますか。

〈お客さんが見えたことを山川先生に伝える〉

先生。お客さんがいらっしゃいました。

〈料理を注文するお客さんに聞く〉

何になさいますか。

〈校長先生が待っていることを先生に伝える〉

校長先生はむこうで待っていらっしゃいます。

〈校長先生が写真を見たかどうか、先生に聞く〉

校長先生がもうこの写真をごらんになったかどうか、ごぞんじですか。

b. お + Vます + になる の形のもの

〈校長先生が帰ったことを山川先生に報告する〉

校長先生はもうお帰りになりました。

〈明日の予定について客に聞く〉

あしたはどちらへお出かけになりますか。

〈外国の王様が泊まった部屋を客に紹介する〉

こちらは外国のおうさまがおとまりになった部屋です。

2.2 動詞の謙譲語は二つの種類がある。

れんしゅう 3-5

a. 謙譲語独自の動詞を用いるもの

| | | |
|--------|---|---------------|
| 見る | = | はいけんする |
| 食べる／飲む | = | いただく |
| 行く／来る | = | *まいる (グループ 1) |
| いる | = | おる |
| 言う | = | 申す |
| する | = | いたす |
| あげる | = | さしあげる |
| もらう | = | いただく |
| 聞く | = | うかがう |

〈改まった場面で自己紹介する〉

チョートと申します。よろしくおねがいたします。

〈インヨットさんの両親のお世話になったことを言う〉

インヨットさんのご両親に車で送っていただきました。

〈父が留守にしていることを客に言う〉

父は出かけております。

〈先生が読んでみたいと言っている本を持って来ることを先生に言う〉

あしたその本を持ってまいります。

b. お + Vます + する の形のもの

〈申し出る〉

何かおてっだいしましょうか。

〈きのうコピーを送ったことを客に知らせる〉

きのうコピーをお送りしました。

〈あとで場所を知らせると友人の両親に言う〉

場所がきまったら、お知らせします。

「動作を表す名詞+する」(グループ 3 の動詞) の場合、「ご+動作を表す名詞+する」にする。

〈席まで客を案内する〉

ごあんないします。どうぞこちらへ。

〈後で予定を知らせるために連絡すると言う〉

よていがわかったら、すぐごれんらくします。

③ 接頭語 お～／ご～

れんしゅう 2、4

名詞や形容詞、副詞の前に「お／ご」をつけることで、相手や第三者への敬意を示す丁寧語である。普通「お～」は、和語のような訓読みの言葉に、「ご～」は、漢語のような音読みの言葉につく。

お友だちのお名前はどよう書きますか。

お仕事はおいそがしいですか。

ご両親はいろいろご親切にしてくださいました。

ご卒業おめでとようございます。

★ 日常生活でよく使われている音読みの言葉には、「お」がつくものもある。

例：お電話、お写真、お時間、お食事、おたんじょう日

★ 訓読みの言葉にも、「ご」がつくものがある。

例：ごゆっくり

「お～／ご～」がつく丁寧語の中には、日常語として一般的に使われているものもある。
お金、お風呂、お茶、おかし、ご飯

④ 「V てください」の敬語表現

れんしゅう 2

「V てください。」文型は、丁寧な表現が3つある。

4.1 尊敬語独自の動詞 + てください。

たくさんめしあがってください。

ぜひ日本へあそびにいらっしゃってください。

「ごらんになる」のような、「～になる」で終わる動詞は「～になって」を省略することもできる。

皆様。あちらをごらん (になって) ください。

4.2 尊敬語独自の動詞がないものは **お + V ます + になってください** の文型を使う。また、これも「～になって」を省略することが可能である。

こちらにお名前とご住所をお書きになってください。

三時にこちらにお集まりください。

しばらくお待ちください。

4.3 「動名詞 + する」は「お／ご + 動名詞 + ください」にする。

今晚お電話ください。

金曜日までにごれんらくください。

相手に何かを勧めたり、招待したりする場面では、「どうぞ～ください」を使う。

どうぞごゆっくりお休みください。

どうぞお好きな所におかけください。

このパンフレットはどうぞ、ごじゆうにおとりください。

どうぞご安心ください。

⑤ V くださって、ありがとうございました。

れんしゅう 6

第20課「V てください、ありがとうございました」の丁寧語で、目上の人や親しい間柄ではない人に対し、丁寧に感謝する時に使う。

作文をなおしてくださって、どうもありがとうございました。

ていねいに説明してくださって、どうもありがとうございました。

先日はたすけてくださって、ほんとうにありがとうございました。